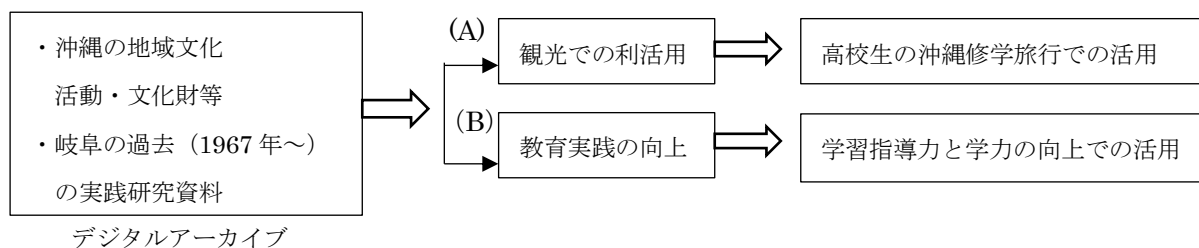


## 沖縄でのデジタルアーカイブの利活用の実践へ (2010年～)

後藤忠彦、眞喜志悦子、加藤真由美、加治工尚子、佐々木恵理 (岐阜女子大学)

### 1 沖縄でのデジタルアーカイブの利活用 (観光と学力の向上に適用)

沖縄の多くの方々の協力で、1990年代から、沖縄の地域文化の収集、記録を始め、デジタルアーカイブ化を進めてきた。また、2009年には、沖縄女子短期大学様の協力支援で、同校に沖縄サテライト校を設置した。このような状況の中で、2010年までの沖縄の地域文化活動・文化財等のデジタルアーカイブ (約2万件の映像等) と岐阜での過去の教育実践研究資料のデジタルアーカイブの利活用について次のような実践研究を進めた。



沖縄でのデジタルアーカイブの利活用 (2010年～)

#### (A) 高校生の沖縄修学旅行 (沖縄おうらい)

沖縄には、毎年多くの高校生が修学旅行に来ていて沖縄観光用のデジタルアーカイブの開発を加藤が進め、毎年1万名以上が活用している。(基本的には、カタログ：印刷メディアとデジタルアーカイブが連携した「沖縄おうらい」を構成した。)「沖縄おうらい」については、すでにData Reportで加藤が紹介している。(Data Report NO. 4、20、69、103)

#### (B) 教員の学習指導力の向上、児童の学力向上

2010年当時の沖縄県は、小学校全国学力・学習状況調査の平均点は、毎年全国最下位であった。学力をいかに向上させるかが、沖縄の学校・教師の大きな課題であった。そこで、指導主事の長尾順子先生、当時教頭で大学院生の宮城卓司先生、井口憲治先生を始め、多くの先生方や大学院生 (現職も含め)、大学生の協力で岐阜の過去の教育実践研究資料デジタルアーカイブを分析し、新しい学習指導方法、学力の向上のための手引きを作成し、教育実践で、広く活用した。

## 2 教育実践研究資料デジタルアーカイブから学力の向上に役立つ情報を見出す（2012年）

2012年に沖縄の小学校の学力の向上に役立つ情報をデジタルアーカイブからいかに見出すかが課題になった。しかし、学力の向上のためには、教師の確かな学習指導方法が重要であり、この学習指導項目を過去の教育実践研究資料デジタルアーカイブから見出す研究を2012年に始めた。

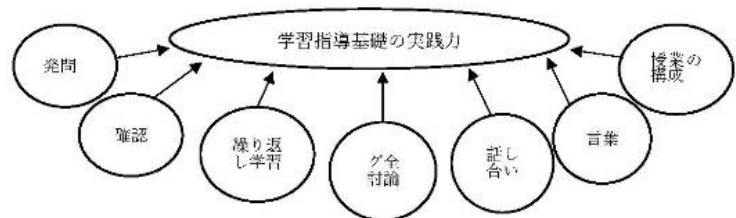
①学習指導項目をまず見出す…索引語(キーワード)を用いて学習指導に関する資料のキーワードの分布を求めて整理した。

その結果が、表に示すような学習指導方法の基礎項目が先生方(過去の)によって重要視していることが分析できた。(図は分布より、学習指導の基礎となる項目を選定)

そこで、確かな学習指導方法を教師が身につけ、児童が学習活動の基礎として習慣化することが重要であると考えた。(学習指導とし、確かな学習指導方法の基礎が重要である)

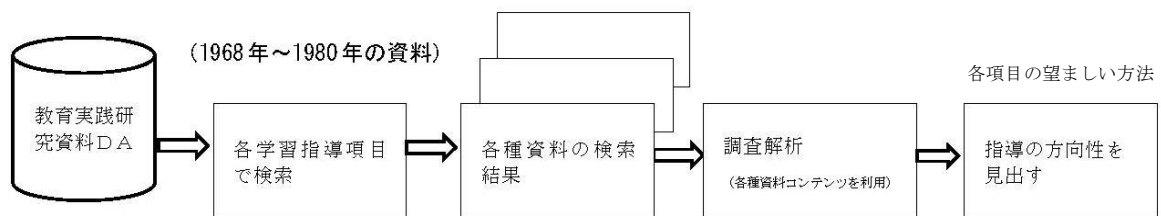
学習指導の基礎(分類)(後藤)

項目	出現頻度
発問	0.29
確認	0.25
グループ・全体討論	0.18
教師と学習者の話し合い	0.21
授業の構成	0.45
操作言語	0.12
繰り返し学習	0.07
他	



### ②学習指導方法の基礎項目の望ましい方法を見出す

各学習授業方法の基礎項目について、どのように指導すればよいか、再度、教育実践研究資料デジタルアーカイブの該当項目(たとえば発問)について、どのようなデータがあるか、そこから新しい授業の方法を検討した。



各項目について図のように検索処理し、各項目に対しての研究実践データ等の資料を整理し、それをまとめ分析、解析し確かな指導方法を見出す。たとえば、教師の発問に対し、最初に分かった者の反応時間の分布は次の図のようである。

これらのデータ等を指導主事、指導者の先生方に提供し、教育委員会等の資料と合わせ検討し、新しい指導方法を「手引き書」として構成した。(具体的事例については、NO. 140 に紹介する。)

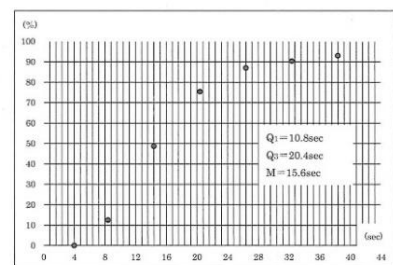


図1-3-3 教師の発問(簡単な思考を要する)に対する反応時間の分布

注1) 廣瀬(1971)を中心に岐阜大学の廣瀬・後藤・森・成瀬らが行った「集団反応曲線(ロット)評価のためのparameter (I-6小学校・探査p36)」TM研究、第7報p36を基に作成

発問の反応分布(グラフより)

	Q 1	M	Q 3
発問	10 秒	14 秒	20 秒